



きらきら☆いわてっこ

「お散歩バックを作ろう！」 ～目的をもって制作に取り組む姿から～5歳児8月

8月の終わりに「今日で水遊びは終わり」の日がありました。子どもたちは夏が終われば楽しかった水遊びが終了することはわかっていますが、かなりがっかりしていました。

そこで先生はポケットからあるものを出して見せました。それを見た子ども達は「うわ～どんぐりだ！」と大喜びです。「探しにいきたい」「どんぐりあるかな」「しかのふんあるよ」とワクワクが止まらない様子でした。「見つけたら、入れるもの欲しいよね」という子どもの声を受けて先生は「じゃあ、お散歩バック作る？」と提案しました。そして次の日、早速バック作りが始まりました。



自分なりのイメージを広げて
イメージに合わせて様々な廃材や色画用紙、ビーズやセロファン、マスキングテープなどを自由に選んで使える環境の中で素材を選びながら、子どもたち同士で試したり考えたりしたことの情報交換が行われていました。
自分のイメージを伝えて共感してもらおうと、さらにイメージが広がる姿がありました。

これさ～さっき糊で貼ろうとしたけど貼れなくてさ

(探すための望遠鏡を作りながら)
2本にすると太鼓のバチみたいだよ

A これ見て～いいでしょう～
B いいね～望遠鏡で見つけられるじゃん
A そうそう2本ついてさ
B どれどれ、あれ～見えないじゃん
A なんでよ～(覗いて黙ってしまう)
B まあ見えるような気がするってことでさ
ふさいじゃってるからさ

関わりながら
友だちに共感してもらおう中で気づいたこと、そして自ら試したり考えたりしながら手直したものを、再度友だちに見せて共感してもらおうとする姿から、育みたい三つの資質・能力が絡み合っ
て育っていることを感じました。

「熊はいないけど鹿はいるよ」というお散歩コースを一緒に歩きたくなりました。



A 見える！見える！
B 貼り直したからさ
A これ見えるだろ
B うん！見えるよ

訪問支援後のアンケートより…

見直しのきっかけに！

今までで疑問に感じていなかった保育の流れや遊びの提供の仕方などを見直すきっかけになったと思います。

幼児教育は環境だ！

「幼児教育は環境だ」という言葉が印象に残りました。子どもたちがやりたいといったときに、実現できる環境を整えたいと思いました。

調理師さんより！

幼稚園では、ダイナミックな遊びでおなかのすく子どもの姿が想像できました。保育所でも、遊びがどんどん広がり遊びこむことで、おなかのすくりズムができて食べる意欲につながるのだと感じられて、とても良い研修になりました。

子どもファースト！

「こどもファースト」という言葉が印象的で、子どもが伸び伸びと自己発揮しながら充実して遊び、本当に好きで遊べる環境づくりや援助ができるよう保育していきたいと思います。

代表者用アンケートより

園として、保育者のどういうところを伸ばしていきたいかお書きください。



若い保育者たちには特に、子どもと一緒に夢中で遊びこんでほしいと思っています。その中で、明日はこの続きをどうしようとか、それを楽しみにワクワクして登所してくる子どもたち、保育者、そうあってほしいです。

それぞれの得意分野や、やりたいことを所の保育理念や方針に沿った形で生かし、伸び伸びと子どもに向かえるようになればいいと思います。あまり得意でない分野は、チームワークでカバーしあえばよいと思います。子どもの成長を皆で喜んで、話し出すような所を目指したいです。



ワンポイント アドバイス

乳幼児保育・教育は環境だ！

環境を構成する際のポイント

- 「園児の興味や関心に応じた環境」
- 「園児一人一人の発達を捉える」
- 「環境との出会いや活動の展開、状況の変化を予想する」
- 「体験が豊かになるような環境」
- 「生活の流れに応じた環境」

などが挙げられます。

※「幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成」より
(R4 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

結果ではなく過程を大切にする

—運動会—

訪問支援先で「走りたがらない子どもをどうしたらよいでしょうか。」「気づいたら子どもに無理をさせて保護者が喜ぶ競技をしていました。」という声が聞かれました。

運動会、子ども主体の行事になっていますか？それぞれの発達に即した競技になっていますか？結果や出来栄重視になっていませんか？

前年踏襲や保育者主導の内容になっているなど、課題に気付いたらチャンスです。子どもたちの考えを尊重し見直しに取り組んでみましょう。また何を大切にしているのか、子どもの運動会に向かう状況はどうかなど、プロセスについて保護者に発信して共通理解を図りましょう。

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(※)をめざしていきます。

※「学習視点に立ち、誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、だれ一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングが実現されるように」次期教育振興基本計画の策定について(諮問)(令和4年2月7日)より抜粋